



会員数 21人

11月例会卓話

「明治日本の産業革命遺産について」

講師 八幡東田まちづくり協議会会長 網岡 健司氏



日本製鉄株式会社に入社しましたが、あいにく鉄の生産には関係のない部署を歩いて来ましたと自己紹介。パワーポイントと素晴らしい冊子を使って「明治日本の産業革命遺産(有形不動産)」が2015年7月5日に世界遺産に登録された経緯へと話は進んでいきます。

19世紀半ばから20世紀初頭にかけて石炭、製鉄、造船等日本の産業土台を築き、近代化に貢献した分野の世界遺産登録を目指して、令和4年から活動を開始したそうです。日本では岩見銀山、富岡製糸場に続き3番目の登録を目指すもので、現在も稼働しているものを含んだ初めての遺産登録への試みでもあったそうです。ここで、ビデオ『ものづくり大国日本・東洋の奇跡』を2分半拝聴。今回の登録規模は8県に渡り、北は釜石から南は長崎までの23都市、28ヶ所のことを丁寧に話されましたが、紙面の都合で官営八幡製鐵所を中心に話をまとめていきます。

去る1896年遠賀郡八幡村に官営八幡製鐵所が建設され、1900年4月24日、当時の総理大臣伊藤博文が東田高炉視察のため来幡し、1901年には東田高炉の火入れ式が行われました。市内にある世界遺産は官営八幡製鐵所旧本事務所、旧鍛冶工場(現在2万点の資料保管庫)、修繕工場、遠賀川水源地ポンプ室(中間市)の4ヶ所となりました。

続いて産業革命遺産の課題と期待です。先ず第一は世界遺産価値の理解活動が大切です。今回の登録は日本全体の一部であること。活用したくても非公開が原則であり、製鉄所構内には立ち入れないし、敷地外からは見学しにくい。それでも眺望スペース(80m離れている)から見学出来るようにされたとのこと。また、今年の11月1日~2日に見学バスツアーのテスト運行も実施。その上、構成遺産の適切な保全、いかに保存して行くが問題です。例えば「軍艦島」をどのように保全するのでしょうか……。



これからは北九州市らしいそれぞれの物語【北九州シリアスストーリー】を作り、八幡東区の河内貯水池(昭和2年完成)や東田第一高炉(1901年から10回の改修工事で遺産には該当しなかった)、産業観光に工場夜景、環境技術も……100年以上産業都市として、まちづくりの歴史と観光施設のネットワーク化を図り、現在進行形のものづくり・まちづくりの北九州市、産業革命遺産の都市・北九州市を目指しましょう!とエールを送られました。

日本製鉄(株)の1日の粗鋼生産量は(400万トン)の質問や、観光バスツアー実施希望も出て有意義な時間でしたし、わが町北九州市を誇らしく、愛しくも思えました。(内藤)

## 11月記念例会報告

創立記念月に当たる11月例会で、いつものように在籍者表彰が行われた。在籍20年が古賀靖子、山下博両会員、10年が安高会員、5年が柴村会員でそれぞれに植田会長から表彰状と記念品が贈られた。

例会はまず、真鍋会員指導でストレッチ体操、会員動向では前会長の松永会員の退会が報告された。そのあと、記念卓話で八幡東田まちづくり連絡協議会の網岡健司会長が「明治日本の産業革命遺産について」の題目で講演、資料として「明治日本の産業革命遺産」という立派な小冊子が配られ、わかりやすい内容だった。

また、会則の見直しについて来年2月からテーマを決めて審議していくこと、12月の各委員会でクラブの今後のあり方などについてのアンケート調査を行うことが報告された。(安高)



### 在籍賞おめでとうございます

(写真左から)

20年…古賀靖子会員、山下博会員

10年…安高洋一会員

5年…柴村美和子会員

## 委員会報告

### 例会委員会

12月5日 7名出席

来年1月の例会卓話は新年会があるのでお休みです。2月例会は山下静江会員が「活かされて生きる My history」(仮題)、副題に「京セラ創業者稲森和夫氏に学ぶ利他の心」をつけ、会員卓話をします。3月以降の卓話は、まずは北九州の映画文化についての話を第一候補に、(株)ゼンリンなど北九州市に本社を置く有名企業の社長さんの話も聞けないか打診してみることにしました。

なお、卓話を公開講座形式で開催出来ないかとの問題提起があり、引き続き検討していくことになりました。(松本)

### 交流委員会

12月11日 9名出席

湖月堂で午後3時30分から開催しました。1月の新年会の企画は、雅楽を呼ぶなど概ね11月例会の案で了承されました。皆さんからの活発な意見が交わされ、楽しく充実した新年会になりそうです。その後「プロバスクラブを次世代につなげるためのアンケート」が配られ、それぞれが回答を提出したあと、和気あいあいのうち食事会に入り、散会となりました。(吉田秀子)

### 広報委員会

12月1日 8名出席

テトラホテル北九州で12時半から開催。「つながり1月号」の原稿出筆者や写真担当者を決め、会長挨拶や各委員長の新年の抱負も掲載が決定。「つながり12月号」の校正は12月の初日とあって、紙面の空白がいつものより目立ったものの、字句の訂正はもちろん、ここに写真を入れてはとか、入れ替えた方がいいとか、活発な意見が出ていました。また、「つながり」の送付先についても検討を行い、14カ所を削減することにしました。懸案の「アンケート」も記入し、今月が最後となるLink24号の編集委員である山下静江会員から「楽しかったです!」との挨拶を受けて、今年の委員会を締め括りました。(内藤)

## ふれあい掲示板

### 通っている絵画教室の作品展に出品

退職後の趣味として絵画を始め、2、3年前から月1回、不定期ながら直方市内の絵画教室に通い始めた。こちらは人物画のデッサン教室で、福岡、北九州、それに地元の愛好者5、6人が通っている、この先生は地元と福岡で絵画教室を開いており、3教室合同で「川島のぶ子絵画教室展」を直方市の谷尾美術館で12月5日から開催した。私も2点出品、作品搬入日には3教室のメンバーが集まり、懇親会を兼ねて食事会を開催、それぞれが作品に込めた思いを発表した。その後に作品を見ると、「なるほど」と思うことも多く、勉強になった。と、同時に自分の作品の幼稚さが目立った。「作品を展示するので、見に来てください」と事前に言えるようになることが今の目標です。(安高)



## 人間は動いて治す

No.81 大石 照志



今年の春頃から膝と踵に痛みが出て、ゴルフやボウリング等を減らして、身体を動かすこと自体が少なくなっていた。病院に通い注射や理学療法を受けて、痛みはわずかながら軽くなったがなかなか治らない。すると物事に対する意欲も減少して、まずは「やる気」が出なくなってきた。このままでは「フレイル」(加齢により心身が老い衰えた状態)になってしまうと思い、3年程前までやっていたポールウォーキング(両手に杖のようにポールを持って歩く)を、起伏のある山の遊歩道で再開した。この遊歩道は落ち葉の中に木の根や石ころがゴロゴロあり、痛みを感じながらも足首のストレッチになり、ポールが膝の負担を軽くするので続けることが出来る。また、ポールウォーキングは身体の筋肉の9割を使う全身運動で「身体を整える」ことができる効果があると実証されている。これを始めてから痛みが見る見る軽減して身体も気持ちも楽になってきた。

「動いて治す」やはり人間は動いてこそ、心身ともに「整える」ことが出来るのだと思った。

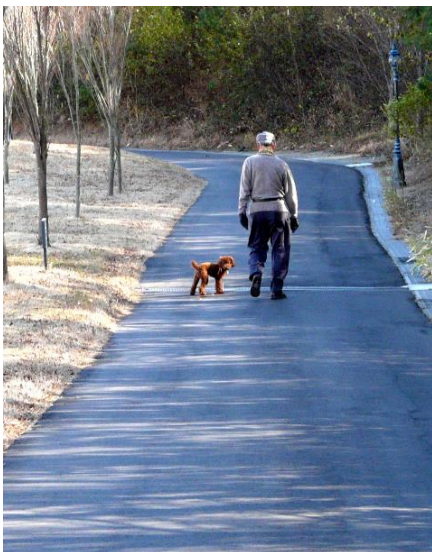
## ～ 同好会活動報告 ～

### 🎨 カラオケの会

11月17日の11時から、浅野パティオで5名参加で行いました。まず食事をして、それぞれのドリンクをもっての始まりです。人生を積み重ねた私たち、それぞれの思いが歌に込められています。リフォームされた広い部屋で、昭和の懐かしい歌、人生の応援歌などを楽しみました。声を出すことは健康のためにも良いことだと思います。たくさんの方の参加をお待ちしています。(安河内)

### 🎵 歌をうたう会

11月24日午後3時から、寒さも和らいだ日、西小倉市民センターで練習を行った。前月は同センターの文化祭に出演し、気分的にはほっとした表情が会員からみられた。出席者5名。新しい曲への挑戦であるが、まずは1曲目野口雨情作詞の「赤い靴」である。この曲が生まれるその当時のそれぞれの悲しい境遇についての解説を聞いた。それを踏まえて歌うのが曲の思いが伝わるのではと感じた。2曲目は12月の月に相応しい「もろびとこぞりて」讃美歌である。2曲を丁寧にご指導いただき、その後は今まで練習した曲を続けて歌い、レッスンを終えた。(古賀)



木漏れ日

古賀靖子

写友会  
作品



光雲の皿倉

大川力





真鍋さんの学生時代は野球三昧で、勉強は苦手だったと話が始まります。1962 年度の高卒者の求人活動は全国的に早く、北九州の求人活動は 10 月頃、八幡製鉄所の大型求人ではほぼ終わりを迎えていたそうです。

当時は車関連の景気も良く、その上八幡製鉄所は翌年、君津に工場を稼働させる計画があり、20 人受験して 11 人が合格という理由が解ったそうです。しかし、安田信託銀行も内定をもらっていたが、真鍋さんは先生と一緒に謝りに行き、八幡製鉄所にいったんは就職を決めたそうです。

ところが、就職担当の先生から「朝日新聞社からの求人がきたぞ」「1名は編集連絡部。印刷局は 1 名」。ただし「社員の紹介者がいる」とのことでした。幸い義理の兄の親族に紹介者を見つけ、筆記試験なし、「家族と私」と題した作文を提出しただけで合格したそうです。健康で夜勤勤務が条件。体力さえあれば、全て良しということで新聞社に就職を決めたそうです。新聞社はほとんど夜勤ばかり、男所帯で飲むことが多いとの評判は内々知っていましたが、仕事柄やむを得ないとも。翌年全国の企業で大幅な賃上げがあり、飲み屋街も大きく潤ったと話されました。自分も角打ち、屋台で飲んだ後、2、3軒スナックで梯子酒、そしてお決まりの朝帰り。先輩からもカツを入れられながら、自らも「遊び新聞」と言っていたそうです。

それ以降、夢のようなこんな時代は 2 度とないと……。古き良き時代でしたね、真鍋さん! (内藤)

折々の花

トウワタ(唐綿)

キョウチクトウ科の多年草で原産地は南アメリカ。

1842 年(天保 13 年)に渡来したとされ、和名はツルワタとも言います。花言葉は「私を自由に行かせて」「心変わり」。春に種をまき二色のコントラストが鮮やかで赤い蕾が開くと、星形の花弁の中央に黄色い部分が開く。なかなか複雑で普通の花のように雄しべや雌しべは裸出せず、付属物の中に隠されています。花は小さくとも果実はトウガラシ大になるそうです。



新型コロナウイルスの小康状態にある 2020 年 11 月に対馬を訪れ、その中央部、烏帽子岳展望所で出会った花です。晩秋の陽光を浴びて咲いていました。勿論近隣でも咲いていますから、どこかで出会えるといいですね! (内藤)

ありがとう BOX メッセージ 11 月分 (入会順、敬称略)

- ★臼杵バスツアー残金の寄付
- ★感謝(遠藤)
- ★寒暖の厳しい毎日。元気で頑張っていきましょう。(古賀)
- ★(吉田秀子)
- ★(植田)
- ★(真鍋)
- ★年を取りまして、すべての働きが悪くなって残念。(洞)
- ★感謝(内藤)
- ★今年の夏は長いが秋と岸田さんは短いか。(吉田信雄)
- ★年々老いを感じます。(安高)
- ★(橋本)
- ★暑さが和らいだらいきなり冬が来ました。頑張りたいと思います。(柴村)
- ★楽しいプロバスにしましょう。(藤原)
- ★産業革命遺産のお話、素晴らしいものでした。(新城)
- ★寒暖差疲労に負けず頑張りましょう。(大石)

収支報告	10 月末残高	105,232 円
	11 月分	7,990 円
	ツアー余剰金寄付	1,955 円
	11 月末残高	115,177 円